

安萬利倍と訓む。所在は今明らかでない。

アマタジマ 阿彌陀島 石川郡松本の小字である。加越能齋跡緒に、『松本領の内阿彌陀島と申所有之候。昔手取川此筋を流れ、洪水之刻阿彌陀木像流來り、此邊の梅の木に懸り有之により、あみだ島と唱來り候。』とある。

アマダノシミツ 阿彌陀清水 金澤天神坂の上から流れ出る冷泉で、如何なる早魃にも絶えなかつた。元文三年六月田井村吉郎兵衛の書上に、『田井村領に清水御座候。あみだ清水と唱申候。』といふもの即ち是である。

アメイソウ 蛙鳴草 一冊。天保七年上田耕の著。藩の經濟を論じ、下民をして心服せしむべき收歛の法を説いたもの。別に天保五年の起草に成る寫岡一編を添へてある。

アメノアシ 雨のあし 一冊。金澤の俳人車大著。加能越三州及び諸國の俳人の雨の句のみを集めたもの。巻首の柳の繪に、『辛酉一陽從暮柳會詩寫雨柳圖以當標書云、雅樂助岸駒』とあり、辛酉は享和元年である。自序、跋は暮柳會舎大。京勝田喜右衛門板。

アメノヒカゲヒメジンジャ 天日陰比咩神社 鹿島郡西馬場・東馬場の入會地なる眉丈山の一峰雷ヶ峰に鎮座する。俗に雨之宮ともいふ。

アメノヒカゲヒメジンジャ 天日陰比咩神社 鹿島郡二宮に鎮座する。もと石動山の下社たる伊須流岐比古神社で、後に芹川にあつた天日陰比咩神社を相殿としたのであるが、今は天日陰比咩を主神とし、伊須流岐比古を相殿二宮神社と稱して居る。芹川に在つた天日陰比咩神社は、式内等舊社記に『天日陰比咩神社。式内一座。朝日庄芹川地内勝山鎮座。

故稱嶺之社。蓋中古亂世社殿廢頽。神官神人等悉散亂。依之合併二宮相殿祀之云。』と見えるものである。

アメノミヤ 雨宮 鳳至郡道下の山上に在る。寶泉寺藏元亨三年十二月頭代光茂の判書に、『奉寄進如意寺堂田井鎮守雨宮神田事云々。』とあるから、鏡川明神の社僧如意寺なるもの、鎮守であつたのである。又永和三年八月廿五日庄主彦壽の寄進狀には、同年の大早魃にこゝで祈禱したことが見える。

アメノモリヒコサブロウ 雨森彦三郎 天正十八年前田利家の武藏八王子攻城に従うて一番首を獲たが、當時利長の小姓大普庵藏が蟄居中、私に戦に加つて二番首を獲たのに功を讓つた。利長後に之を聞いて彦三郎の友誼を賞し、又隱藏の罪を赦したといふ。

アメヤザカ 飴屋坂 金澤犀川川上新町邊の河原へ下る坂の附近に飴を商ふ小家があつたので、その坂を飴屋坂と呼んだといふ。今は坂路らしい体を存せぬ。

アユカミ 鮎上 羽咋郡の舊村名。惣持寺藏文和三年八月の寄進狀に、あゆかみむらの地頭職云々と見え、康正二年造内裏段錢國役引付に東岩藏寺眞性院領能州鮎上村段錢ともある。鮎上村は後の相神であらう。

アユタキボウ 鮎瀧坊 ↓アイタキボウ 鮎瀧坊。

アライソヒコジンジャ 荒石比古神社 鹿島郡川尻に鎮座する。式内等舊社記に、『荒石比古神社。式内一座。高田保川尻村地内鎮座。古代之神器傳來。今稱藥師社。』とある。荒石を阿良以會と訓むは、磯部を石部と書くの例である。

アラオコシケンブン 荒起見分 ↓カイサクブギョウケンブン 改作奉行見分。

アラカシヒコジンジャ 阿良加志比古神社 羽咋郡梨谷小山にあつたといひ、能登名跡志に、『梨谷小山村に阿良加志比古の神社立給ふ。御神体大石にて、いづれの御像石にや知れず。』としてゐる。しかし羽咋郡の記録に當つてこの社の存在したことを記したものを見ぬ。思ふに他に例のある如く社殿を有しなかつたのであらう。又之を式の久麻加夫都阿良加志比古神社に擬するものは誤であらう。

アラカシヒコジンジャ 阿良加志比古神社 鹿島郡大吞郷の山崎に鎮座して、大吞六郷の惣社と稱する。能登名跡志に『山崎村といふに阿良加志比古神社立給ふ。少彦名命の像石也。』と見える。

アラキ 荒木 江沼郡山中谷に屬する部落。江沼志稿に、昔は荒木領まで江で、今も宮にあるたもの木に舟を繋いだといつてゐる。

アラキ 荒木 羽咋郡地頭町の海岸、斷崖絶壁の下僅かに一路を通ずる所をいふ。能登名跡志に、『富木の上の入口に、七海の荒木とて、山岨へて海へさし出たる所有。此風景山のかたち、海邊の岩組、砂川の淺瀬、岩間を潜る有さま、怪岩異石自然のながめ言葉にも盡し難し。絶景也。さるに依て、露地を作るには、此所の風景を移すといへり。』とある。土人の口碑に、源義經が能登に入つた時この所で、『義經が身のさび刀とぎに來て荒木のさやに入るぞかなしき。』と詠じたといふのは、固より好諧謔にすぎぬ。

アラキゴウ 荒木郷 羽咋郡の古郷名で、阿良岐と訓する。今羽咋郡浦から富來に至る海岸に荒木といふ所があるもの、或はその遺であらうとの説がある。また神鳳鈔に能登國富來御厨があり、承久三年注進の能登國田數目錄に羽咋郡富來院があり、一宮衆徒知行狀に富木院があるものは、荒木の字を避けて嘉名に改めたもので、飛騨の荒城郡を吉城郡とし、信濃の荒田郷を良田郷とした類であると解するものもある。

アラキゼスイ 荒木是水 書家佐々木志頭磨の高弟で、金澤に來寓してゐた。その郷貫は明らかでない。

アラキゼンダユウ 荒木善太夫 もと越中城端城主であつたが、前田利家に仕へて千石を領し、武藏八王子の役に戦死した。その子善太夫は初名兵太郎。祿二百五十石で御使番を勤め、慶長五年大聖寺の役に戦死し、子孫相繼いで藩に仕へた。

アラキダ 荒木田 能美郡輕海郷に屬する部落。

アラキタカノリ 荒木貴記 通稱平左衛門。寶曆十一年御算用者、明和五年新番となり、天明六年父平左衛門爲貞の遺知百四十石を襲ぎ、組外に列し、次いで前田齊廣の御抱守として五十石を加へ、享和二年表御納戸奉行に任ぜられ、文化五年歿した。

アラキタメサダ 荒木爲貞 通稱平藏・平左衛門。寛延三年御算用者小頭に進みて新知八十石を受け、寶曆十一年六十石を加へて組外に列し、安永中又五十石を増した。天明六年歿。子孫相襲いで藩に仕へた。

アラキナホシ 荒木直吉 通稱六兵衛。兄善太夫の後を受け、初祿二百五十石、後加

アミ—アラ